

2010年秋学期レポート

ギャロデット大学進学

2010年9月からギャロデット大学へ進学した。入学式はなく、代わりにオリエンテーションが一週間ほどあった。なぜ一週間も？と思ったが、登録手続きや、クラス決めテスト、学校方針の説明などだけではなく、先輩方達によるキャンパスツアーやDC観光ツアー、ギャロデットの伝統行事の説明、学長・先輩・新入生達との交流会など様々なイベントがあり、賑やかな一週間であった。友人も作る事ができ、新しい大学生活に対する不安も少し解消された。ギャロデット大学では社会福祉を学ぶ。2014年卒業を目指して日々精進していきたい。

履修クラス

1) 1年次セミナー

読解力、レポートスキル、リサーチスキル、プレゼンテーションスキルなど、大学の授業に必要なスキルを身につけることと、自分にあった勉強法や職業を見つけるための自己分析を目的としたクラス。大学ではパワーポイントを使っでの発表が数多く行われるので、このクラスはプレゼンテーションスキル養成に力をいれていた。人前で話すことが苦手な私にとって、このクラスはもってこいであった。聞き手に興味を持ってもらったり、聞き手に取ってわかりやすい話し方、自分の考えを理解してもらおう発表の仕方などを学んだ。他のクラスでもパワーポイントを使っでの発表が何回かあったので、このクラスで学んだことがとても役に立った。秋学期だけで10回以上パワーポイント発表が会ったのだが、まだ、人前に立つとどうしても緊張してしまうので、さらなる練習が必要だと感じた。

2) アメリカ手話とろう学

秋学期の中で印象に残ったクラスである。アメリカ手話やろう史、ろう文学、手話言語学などを学んだ。特に言語学は私にとって新しい分野であり、学ぶことが多かった。手話が言語であることは知っていたが、なぜ言語なのか、聞かれたら答えられない。このクラスではアメリカ手話にも動詞、名詞、修飾詞など、言語の体系がしっかりあることや、音声言語と手話の違いなどを学んだ。また、ろう者としてのアイデンティティを高めることもできた。

3) 人間生物学入門

社会福祉学を専攻する前にとっておかなければいけないクラスである。文字通り人体のしくみについて学ぶのだが、高校で学んだ内容よりもさらに深く掘り下げていく。長い専門用語などもたくさんでてくるので、頭がこんがらがりそうだったが、先生がパワーポイントや動画を使いながら手話で話すので理解しやすかった。クラスも少人数構成なので質問もしやすく、学びやすい環境であった。

4) 社会福祉士のための経済学

経済学の基本や、経済の変化がどう人々に影響を及ぼすのか、なぜ社会福祉士が経済と大きく関係するのか、どう政府が経済に関わってくるか、などを学んだ。現代社会に置ける問題を取り上げ、分析しながら学んでいったので、わかりやすい授業であった。多くの読書が強いられ、読み切れない時もあったが、内容がアメリカの問題だけでなく、世界でも日本でも取り上げられている共通の問題ばかりだったので、読んでいてあまり苦にならなかった。クラスメイトとのディスカッションも盛んに行われ、現代社会についていろいろと考えさせられた。

5) 英語(ライティング)

このクラスでは主に議論型エッセーの書き方を学んだ。より説得力のあるエッセーに仕上げるために、様々な文献や資料を読んで、それらに書かれてある事実や統計情報など盛り込んだりした。誰が読むのか、自分の主張に反対の読み手はどう反論してくるか、その反論にどう反論するか、など読み手のことも意識しながらより力強いエッセーしあげていった。他のクラスでも多くのエッセーを書かなければいけないので、応用していきたい。

私生活

家は2007年にギャロデット大学付属の英語学校でクラスメイトだった子に紹介してもらい、すんなり決めることができた。ハウスメイトはアメリカ人、スイス人、スペイン人、韓国人で、国際色豊かである。お互いの国の習慣や文化を知ったり、料理を楽しむことができ、毎日が異文化交流会である。

秋学期を終えて

毎日朝早くからクラスがあったため、割と規則正しい生活が送れた。そのせいか、体調を崩すことなく元気に過ごせた。家も学校のすぐ近くだったので、週末も学校へ行ったり、夜遅くまで学校で勉強ができたりと、なにかと便利だった。ただ、テスト前や大きな課題の提出日前になると徹夜することが何度かあったので、次学期はもっと計画的に過ごせるように心がけたい。